青森県 鶴田町 移住応援パンフレット

TSURUTA U&I TURN

AOMORI
TSURUTA–TOWN

鶴田町マスコットキャラクター つるりん

鶴と国際交流の里
鶴田町

鶴田町は、津軽平野のほぼ中央に位置する、郷愁を誘う田園風景が広がる小さなまち。
恵まれた自然環境を活かし、稲作とりんごなどの果樹栽培を中心とした農業を主産業としています。
なかでも、ぶどうの品種「スチューベン」が作付面積、生産量ともに日本一を誇り、町を代表する特産品となっています。

目次

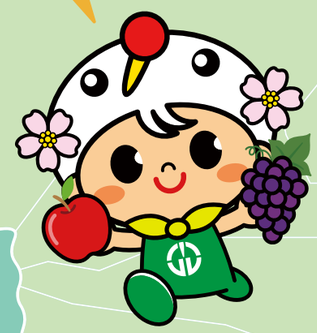
2-3 鶴田町ってどんなところ？
4-5 先輩移住者インタビュー 山田さんご夫婦
6-7 先輩移住者インタビュー 佐藤さんご夫婦
8-9 鶴田町のインフラ
10-11 各種支援情報

人口・面積

人口は令和4年4月末現在、約1万2千127人
（県内40市町村中20番目）、
面積は46・43平方キロメートル
（県内40市町村中37番目）。
青森県の中でも比較的小さなまちなんだね～！

特産物

なんと言っても「スチューベン」！
糖度が18度以上と、とっても甘いぶどうで、
房が大きく着粒数が多いのが特徴です。
房全体がよく締まっていることから貯蔵性が高く、
収穫した10月から、なんと翌年2月頃まで
食味と鮮度を維持したまま出荷が可能！
「つるたスチューベン」としてブランド化し、
地理的表示産品（GI）にも登録され、名実ともに
鶴田町のブランドぶどうとして愛されているよ。



気候

年間平均気温10・6度。
1・2月は氷点下となる日も多く、
冷たく湿った空気が奥羽山脈にぶつかって
たくさんの雪が降ります。
（最大積雪深：平均85センチメートル）
逆に夏は冷涼で過ごしやすいよ！
（8月の平均気温：23・4度）

AOMORI
TSURUTA-TOWN

方言

独特なイントネーションの「津軽弁」を話します。
外国語と間違われることがあるくらいで、
はじめのうちは戸惑うこともあるかもしれませんが、
だんだんと慣れてくるので安心してください。

鶴田町は
スチューベンの
生産量が
日本一なんだ!!

田舎でのびのび子育て
家族の時間がつくれた農業

山田（やまだ）俊（しゅん）さん
山田（やまだ）園実（そのみ）さん
2018年に 鶴田町に移住

ご夫婦で鶴田町に移住した
山田ご夫婦。

都会で会社員として働いていた俊さんは転勤や部署移動が多い会社で、「この先ずっと勤めてはいけないのではないか」と考え、園実さんには結婚前から就農の希望を伝えていました。

園実さんも自身が八丈島出身ということもあり、子供は田舎でのびのびと育てたいと考えていました。

鶴田町への移住のきっかけは〝地域おこし協力隊という制度を知ったこと〟〝鶴田町がスチューベン農家への就農を目的としたミッションで募集をしていたこと〟でした。

任期の3年間で、スチューベン農家の師匠に作業を教えてもらいながら、自身も農家として独立する準備をしていました。

「会社員時代とは違い、家族の時間が増えました。地域の方々もあたたかく、移住してからとてもよくしてもらいました」と言う俊さん。

移住後、第一子の芽依（めい）ちゃんが誕生し、子育ても充実しているそうです。

山田さんご家族が営む『芽実農園（めぐみのうえん）』は、市場に卸すだけではなく〝お客様への直接販売・観光農園・草木染のワークショップ〟など自分たちの特色をだしたコンテンツへ挑戦しているそうです。

移住を検討されてる方へ

僕たちは就農に関するイベントや地域ごとの移住フェアなどいろいろ参加しました。

いろいろな地域をみてしっかり検討することは大切だと思います。移住へのサポートも含めて納得できる場所を見つけてください。

実際に移住してみると、考えている間には想像できないような、素敵な出会いや体験がたくさんありました。

自分の大切な家族との時間が増えたこと、新しいチャレンジができたこと、僕は移住してよかったです。

移住を考えているみなさん、人生後悔しないように、勇気を振り絞ってみてください！

移住を検討されてる方への
メッセージ動画
はこちらから！

移住のコツは一歩を踏み出す勇気

佐藤（さとう） 憲佳（のりよし） さん
佐藤（さとう） 玲央菜（れおな） さん
2022年に 鶴田町に移住

ご夫婦で鶴田町に移住した
佐藤夫妻。

憲佳さんは鶴田町出身、
玲央菜さんは岩手県出身で学生時代
を弘前大学で過ごされていたので、
青森県には縁がありました。

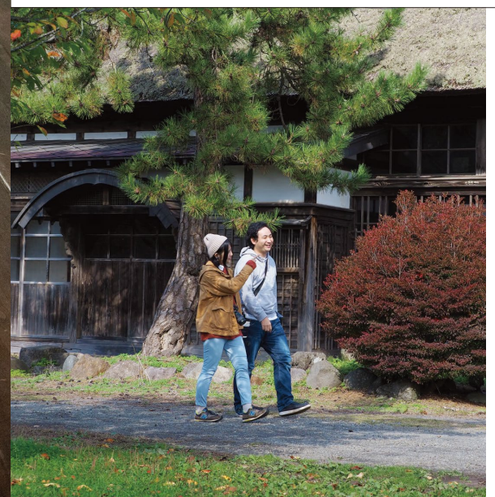
東京で働いていたおふたりは、ずっと
青森県への移住を考えていました。

いったん弘前市へ移住した後、
現在は鶴田町で暮らしています。

システムエンジニアとして働く
憲佳さん。

勤めている会社には
リモートワークの社内制度があり、
都内の会社に所属しながら鶴田町で
暮らしています。

玲央菜さんは都内で助産師をして
いましたが、
移住を機に憲佳さんのお母さんと
『crane』というこぎん刺しのショッ
プを立ち上げました。
（店舗はネットショップのみ）



また、それとは別に
ECサイトの宣材写真・動画撮影を主な
サービスとする『tenuto』という事業も
運営しています。

都内に住んでいたころは、
家賃や食費に大きな支出がありましたが、
移住してからは支出が減り、玲央菜さんの
お給料が無くなっても家計バランスは変わ
りませんでした。

おふたりは家庭菜園が趣味。
鶴田町に移住してからは、
畑に使える時間が増えたと喜んでいます。

地方移住のデメリットを聞くと、「自然に
情報を取り入れられる機会が減って、自分
から情報を収集しないといけないこと・外
食のバリエーションは寂しいと思います」
とお話していました。

移住を検討されてる方へ

東京はたくさんのコンテンツが
あって楽しい反面、
自分達の時間やお金を様々なもの
に費やしてきた気がします。

通勤や付き合い、遊びも含めて。

移住してからは
自分たちのやりたいことに落ち着
いてチャレンジできている実感が
あります。

僕たちは
〝もし青森で暮らして、馴染めな
かったら移住しなおそう〟
くらいの気持ちで
移住してみました。

物件は購入ではなく
賃貸で探すなどの
リスク対策もしました。

できる対策はしたなら、
あとは一歩を踏み出す勇気だと
思います！

移住を検討されてる方への
メッセージ動画
はこちらから！

AOMORI
TSURUTA-TOWN

鶴田町のインフラ

住んで都の
鶴田町！

生活環境

医療施設
診療所:1院、内科医院:3院、眼科医院:1院
歯科医院:3院（介護施設:のべ17件）

教育
認定こども園:3園、保育所・園:3園、幼稚園:1園、
小学校:1校、中学校:1校、県立高等学校:1校

商店
スーパー:3店舗
ドラッグストア:2店舗

交通
JR:2駅
町内全域無料循環バス

公園
2か所

温泉
4施設

コンビニ
6店舗

鶴のモニュメントが
いっぱいあるよ！

鶴田町を代表する
観光スポット！

農道から見える
岩木山が
とても綺麗だよ！

アクセス

電車
JR五能線の陸奥鶴田駅下車
JR青森駅から約1時間
JR弘前駅から約30分

自動車
東北自動車道の大鰐・弘前ICから約35分
国道7号～国道339号で五所川原方面へ

飛行機
青森空港から車で約35分

各種支援情報

※令和4年度現在

移住定住促進交付金

定住のための住宅（新築・建売・中古）を取得した世帯を対象に、
新築10万円、中古5万円の基本額に加え、
五所川原圏域以外からの転入は5万円、県外からの転入は10万円、
子育て世帯は子ども・妊婦1人につき2万円、
町内建築業者利用で5万円を加算し支給。

詳しくはこちらから

空き家バンク活用促進事業補助金

空き家バンクに登録されている町内の住居物件を購入した際、
改修・片付けにかかる費用に対して補助金を支給。
改修等補助金：上限30万円（移住世帯）
片付け補助金：上限10万円

詳しくはこちらから

鶴田町移住支援金（青森県との共同事業）

東京圏から移住して就業、起業した方など（※）を対象に、
単身での移住:60万円、世帯での移住:100万円
（18歳未満の子ども1人につき30万円加算）を支給。（諸要件あり）

※支給対象者は「対象求人に就業」「起業」「専門人材」
「テレワーカー」「関係人口」としています

詳しくはこちらから

子育て支援情報

誕生祝金

出生時に出生児および保護者が鶴田町に住所を有する場合、
出生児1人につき10万円を支給。

幼児のフッ素塗布無料事業

むし歯予防に効果があるとされる
フッ素塗布を1人につき5回無料で実施しています。

保育料、副食費の無償化

町内に住所を有する園児の保育料、副食費を無償化

子ども医療費の無償化

乳幼児から高校生までの医療費を無償化

学校給食費の無償化

小・中学校の児童・生徒の給食費を無償化

医療支援情報

特定健診の無料化

身体計測、血圧測定、尿検査、血液検査、心電図検査などが受けられる特定健診を無料化

がん検診料の一部補助

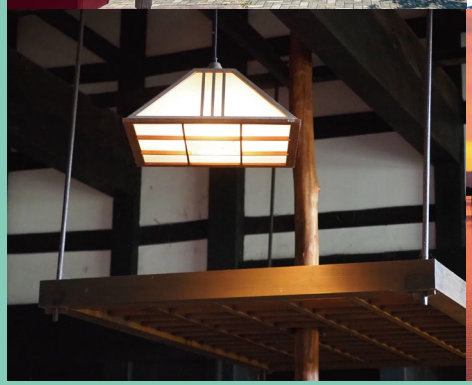
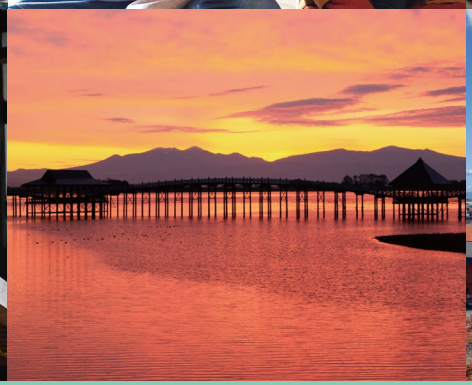
胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん検診に係る費用の一部を補助

がん検診精密検査費用の一部助成

町のがん検診を受けて要精検となった場合、精密検査に係る費用の一部を助成

不妊治療費の助成

不妊治療、不育症治療に係る費用の一部を助成

移住相談窓口
INFORMATION

鶴田町役場 企画観光課 まちづくり班
0173-22-2111

〒038-3595
青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字早瀬200-1
MAIL: keikaku@town.tsuruta.lg.jp
HP:http://www.town.tsuruta.lg.jp

発行日 / 令和4年12月